

# シャロンの花

同窓会報

第 15 号

発行部数 2500 部

## 平成23年度総会・懇親会のお知らせ

日 時 5月21日(土) 総会受付 午後1時30分～  
総 会 午後2時～  
懇 親 会 午後3時～

場 所 京成ホテルミラマーレ(京成千葉線 千葉中央駅下車 徒歩1分)  
住所: 〒260-0014 千葉市中央区本千葉町15-1  
☎: 043-222-2111

会 費 7,000円(当日受付にてお支払ください)

懇親会だけの出席も大歓迎です。恩師の先生方も多数ご出席いただいております。  
本年は昭和45年卒高校第22回生の皆さんが幹事団を組んで取り組みますが、  
卒業生はどなたでも出席できますので、お誘い合わせの上ご来場下さい。  
お問合せ・お申込みは、5月15日までに同窓会事務局(☎: 043-251-9221)へ。

「シャロンの花」は校歌の歌  
い出します。

昭和26年、創立10周年記念に  
制定されました。当時教頭でいらした沢田繁二先生作詞のこの  
校歌は、他校にはない美しい響  
きを持つ詩で綴られています。  
同窓会報を創刊するにあたり、  
懐かしい言葉「シャロンの花」  
をタイトルにいたしました。

シャロンは、イスラエル西部  
の地名です。その地に咲く白い  
可憐なシャロンの花は、旧約聖  
書で「純潔」の象徴とされてい  
ます。

平成23年3月9日発行

(表紙タイトル・イラストデザイン 昭和35年卒 北川広志)

発行者

千葉県立千葉東高等学校  
同窓会会長 井戸川 浩

編集部

千葉県立千葉東高等学校同窓会事務局内  
〒263-0021 千葉市稻毛区轟町1-18-52  
TEL 043-251-9221 FAX 043-255-6575

印刷所 (株)宮坂印刷 TEL 043-251-4537 FAX 043-251-4535



## 同窓会報「シャロンの花」 第15号発刊ご挨拶

千葉県立千葉東高等学校同窓会  
会長 井戸川 浩

同窓会会員の皆様並びに恩師の先生方、お変わりなくお過ごしでしょうか？

「シャロンの花」第15号をお届けいたします。

また、本日めでたくご卒業を迎えた生徒の皆さん、  
ご卒業誠におめでとうございます。

皆さんを伝統ある本校同窓会の会員としてお迎えすることはとても嬉しく、同窓会を代表して心から歓迎をし

たいと思います。

さて、創立70周年の歴史を刻んだ母校の輝かしい発展をこの会報でご確認下さい。

同窓会報「シャロンの花」が脆弱な財政基盤の中で15年の永きにわたって発行できたのも、母校愛あふれる同窓生の皆様からの継続的な寄付のお陰と心から感謝申し上げております。

また、日々の活動を支えて下さった校長先生をはじめ先生方のご尽力にも厚くお礼申しあげます。

どうか、今後も発展する母校の後援会として同窓会活動を積極的にご支援いただきますとともに、会報「シャロンの花」をご愛読下さい。



ご挨拶

同窓会名誉会長  
校長玉造功

今年度着任2年目を迎える校長の玉造でございます。同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動につきまして、多大な御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成22年度は、昨年度の様なインフルエンザの大流行もなく、東雲祭や修学旅行など主要な行事を無事終了することができました。

今年度の大きな、そして輝かしい出来事は、なんと言っても陸上部で3年生の三原浩幸君が沖縄で開催された全国総合体育大会男子200メートルで見事に優勝したことです。

本校において個人が全国大会で優勝したのは、昭和40年以来実に45年振りの快挙でした。三原君は、10月に行われた「ゆめ半島千葉国体」でも成年を含めた400mリレーで千葉県のアンカーとして出場し、見事3位入賞を果たしました。

また、12年連続でインターハイに出場している山岳部の女子も2年連続で全国2位に輝きました。県内有数の進学実績とともに、まさに「文武両道」を体現した一年であったと思います。

いよいよ来年度には創立70周年を迎えます。

同窓会にも御支援をいただきながら、しっかりとした周年行事を準備したいと考えております。

どうぞ今後とも母校隆盛のために、御支援くださるようお願い申し上げます。

# 貸ビル業

JR蘇我駅西口前

## 新月

**ギャレックスチバ株式会社**

—営業品目—

学校体育衣料／スポーツ用品／カバン・校章  
名札・腕章・旗／トロフィー／インテリア用品

オリジナルTシャツ  
トレーナー  
イベントジャンパー

→ プリント加工

# 平成22年度 千葉県立千葉東高等学校同窓会総会報告

## 歴史的快挙！ 200名を越える参会者

平成22年度同窓会総会・懇親会は平成22年5月22日千葉市の三井ガーデンホテルで開催されました。

当社は、参加人員が200名を越える記録的な参加を得ました。これには年度幹事である高校第21回生昭和44年卒の飯塚正一氏を幹事長とする各クラス（衛生看護科第1回生も含む）の幹事約34名からなる幹事団（東雲会）の皆さんのがたが昨年の総会（H21.5.21）で引き継ぎ式をしたのち7月から延べ13回にわたる打ち合わせを重ね、同年次の団結と懇親会の盛り上げを旨に一年がかりで周到に準備したものでした。

ご尽力に対し心からの謝意を表するものであります。

### 会長挨拶

本日は卒業生の皆さま多数おいで下さいまして有難うございます。本校は3万人近い卒業生を輩出しております。在校生は先生方の献身的な教育活動の結果、運動系、文化系とも大いに活躍しており東高健児のさらなる活躍が大変楽しみです。

同窓生の皆さまの継続的なご支援に厚くお礼申し上げます。経済不況の中、支出について大幅な見直しをしました。今後も宜しくお願ひ致します。

### 名誉会長挨拶（玉造校長）

昨年度から東高でお世話になっている。進学指導重点校に指定され6年。22年春の卒業生のほぼ3/4が国公立大学に進学し、現役合格109名はこれまで最も多い数字。但し高校3年を勉強勉強で埋め尽くすばかりでは良いとは思わず、部活などにも重点を入れている。山岳部と陸上部で目覚ましい成果が出ている。これからも各部活動で素晴らしい結果が報告されるだろう。このように学習も部活動も学校行事も、個人個人ではなく全員で飛躍しようとしている。

### 来賓挨拶（須田義男先生）

創立40周年の時に校長として在任。前任の相川先生がお亡くなりになり、皆まとともにご冥福をお祈りした

い。部活動については新聞などで拝見している。現役での大学合格が多いのは、普段の生活の基礎がしっかりとしているからだろう。会報にて二人の同窓生の目覚ましい活躍をみて感銘を受けた。今後も体に気をつけて活躍して頂きたい。多くの同窓生や旧職員もお招き頂き有難うございます。私どもはこういう場所で昔話をする度に気持ちが若返り、脳の活性化につながっている。今後も脳の活性化のためにここに来たいと思っているので、宜しくお願い申し上げます。

### 議事（議長に小塚書記を選出し進行）

- (1) 平成21年度事業報告
- (2) 平成21年度同窓会費決算書
- (3) 監査報告
- (4) 同窓会会則一部改定の件

県の指導による同窓会入会金・同窓会費の金額を明確にする必要があると背景を説明した。

- (5) 役員の選出

新たに常任幹事となった2名の紹介。満場一致で承認された。

- (6) 平成22年度事業計画（案）
- (7) 平成22年度事業予算（案）

同窓会報は寄付者を重点にお送りし全員にお送りしないこと、お送りしない方にはネット活用を検討中であることを説明した。（前年総会で承認済みであることも付言）進路学習支援を活性化してほしいという学校側の要望があり、検討を始めていることを報告。

創立100周年祈念70周年記念事業について何か決まっているか、という質問あり。これに対し、「10年毎に周年事業をしたいと思っているが、具体的な内容（使途）はPTAとの共同事業になるので、目下学校当局と調整中である」と回答。

最後に、（来賓の須田先生のご要望もあり）ご逝去された相川元校長先生のご冥福をお祈りし、一分間の黙祷を捧げました。

（文責 市原俊介 高校第45回H5卒）



**平成21年度千葉東高等学校  
同窓会決算書**

総収入 ¥3,973,538  
総支出 ¥4,350,606  
残額 ¥-377,068 …次年度へ繰越

**収入の部** (単位：円)

項目	収入額
1. 繰 越 金	831,268
2. 会 費	948,000
3. 入 会 金	158,000
4. 同窓会活動維持基金	1,517,000
5. 総 会 会 費	364,000
6. 広 告 代	90,000
7. 雜 収 入	65,275
計	3,973,538

**支出の部** (単位：円)

項目	支出額
1. 運 営 費	1,237,548
(1) 会 議 費	0
(2) 総 会 費	539,525
(3) 通 信 費	282,641
(4) 慶 事 費	316,528
(5) 旅 費	0
(6) 雜 費	98,854
2. 事 業 費	3,113,058
(1) 同窓会報発行費	2,713,058
(2) 母校部活動支援費	300,000
(3) 海外派遣支援費	100,000
3. 予 備 費	0
計	4,350,606

**基金繰入金会計**

平成22年3月末現在 ¥4,885,740

項目	収入	支出
前年度繰越金	4,868,627	0
利 息	17,113	0
計	4,885,740	0

**創立70周年記念事業基金**

平成22年3月末現在 ¥9,555,054

項目	収入	支出
前年度繰越金	7,170,292	0
利 息	1,881	0
60周年繰越金	1,630,881	0
今年度入金分	752,000	0
計	9,555,054	0

**会計監査報告**

平成21年度同窓会会計の出納簿、証拠書類及び預金通帳等を詳細に検査した結果、処理が正確であり支出も適正であることを認めたので、ここに報告致します。

平成22年5月10日

千葉県立千葉東高等学校同窓会  
会計監査 時田拓央印  
澤田繁信印

**基金繰入金会計**

平成22年3月末現在 ¥5,895,740

項目	収入	支出
前年度繰越金	4,885,740	0
利 息	10,000	
一般会計合算額	1,000,000	
計	5,895,740	0

**平成22年度千葉東高等学校  
同窓会費予算書**

**収入の部**

項目	収入額
1. 繰 越 金	377,068
2. 会 費	948,000
3. 入 会 金	158,000
4. 同窓会活動維持基金	1,600,000
5. 総 会 会 費	1,400,000
6. 広 告 代	100,000
7. 雜 収 入	100,000
計	3,928,932

**支出の部**

項目	収入額
1. 運 営 費	1,860,000
(1) 会 議 費	200,000
(2) 総 会 費	1,000,000
(3) 通 信 費	250,000
(4) 慶 事 費	300,000
(5) 旅 費	10,000
(6) 雜 費	100,000
2. 事 業 費	1,000,000
(1) 同窓会報発行費	500,000
(2) 母校部活動支援費	300,000
(3) 母校教用具支援費	100,000
(4) 海外派遣支援費	100,000
3. 予 備 費	88,284
4. 基 金 繰 入 金	1,000,000
計	3,948,284

**創立70周年記念事業基金**

平成22年3月末現在 ¥10,258,054

項目	収入	支出
前年度繰越金	9,555,054	0
利 息	3,000	
今年度入金分	700,000	
計	10,258,054	0

**平成21年度事業計画実施状況**

1. 総 会 平成21年5月21日（土）

三井ガーデンホテルにて  
70余名が参集して実施

2. 母校教育活動の後援、学校行事参加活動

①部活動（全国大会出場）支援

関東退会以上に出場した部活は、陸上部、男子バレー  
ボール部、囲碁同好会、美術部、山岳部であった。

②海外留学引率者支援

H22.3.17から28日までの12日間、10名の生徒がミ  
シガン州クラークストン高校へ派遣された。

③卒業式・入学式・体育祭・文化祭等行事参列・参観等

H21.4.7 入学式参列 H21.9.6 東雲祭参観

H21.10.29 東雲ネット“さわやかミニトーク”参加

H22.3.9 卒業式参列

3. 同窓会会報発行

H22.3.9 “シャロンの花”第14号 19,000部発行

**平成22年度事業計画**

1. 総 会 平成22年5月22日（土）

2. 同窓会会報「シャロンの花」第15号発行  
(平成23年3月予定)

3. 同窓生・恩師对外発表会等参観支援・顕彰活動

4. 同窓会維持基金、創立100周年祈念70周年記念事業

基金等募金活動

5. 母校教育活動の後援、学校行事参加活動

①部活動（関東大会出場等）後援

②对外発表会等参観・後援

③進路学習支援

（先輩による実業界報告と懇談、事業所訪問）

④海外研修引率者支援

⑤卒業式・入学式・体育祭・東雲祭等行事参列・参観等

6. 支部発足支援活動

7. 役員会

原則隔月第二日曜日（8月・11月休会）

# 先輩 バンザイ

元校長 嶋田侑兒先生叙勲  
卒業校に校長で着任

(高校第5回S28卒)



(2011.2.22. 母校校長室にて。聞き手: 井戸川同窓会長)

——どうも先生、お久しぶりです。お元気そうでなによりです。

嶋田: やあ。いつも同窓会活動に熱心に取り組まれ、元校長としても同窓生としてもとても嬉しく思っていますよ。

——ありがとうございます。先生は母校を昭和28年にご卒業された後、教職の道を歩まれ、平成4年には千葉県教育庁学校教育部指導課長から母校へ校長として着任され、平成7年定年退職されたわけです。「卒業校に校長として着任する」という本校始まって以来の慶事第1号ですね。その時私も同窓会長をしており、色々ご教示・ご指導をいただいたり、大変ご協力を頂きました。

嶋田: いやいや。長い教員生活の最後に母校の校長になったというのは大変ありがたくもあり、嬉しいことでもありました。もう既に本校の卒業生が多数教員になっていますし、他校の校長になっている卒業生もいますからいざれ本校の校長として着任するのは珍しくなると思いますよ。教頭先生ではもうすでに何人かが本校に着任していますね。

## 二度目の皇居参内 教育功労賞に続く生存者叙勲

——ところで、平成21年4月29日のみどりの日に、春の生存者叙勲という栄誉を受けられましたね。同窓会の把握がかなり後になって分かったもので遅ればせながらのお祝いになって恐縮ですが、誠におめでとうございます。

嶋田: ありがとうございます。私は教員として自らの職務を全うできればそれで良いと考えておりましたし、そう務めてまいりました。平成6年に教育功労者として文科省から表彰を受け、一応受賞者は夫婦揃って皇居で天皇陛下からお言葉を頂き、感激したものです。それで充分だと思っていたのですが、このたびは叙勲という栄誉を受け、再び皇居で天皇陛下からお言葉を頂くことになり、自分としては望外の幸せと申しましょうか感激の極みでございましたね。

——叙勲の式典や皇居では何か印象的なことはありましたか。

嶋田: そうですね。東京プリンスホテルで叙勲勲章伝達式が行われ、700名余りが出席して行されました。夫人同伴だったり、高齢者は付き添いの方もおりますし、今回はバス33台に分乗し、皇居に向かい春秋の間での天皇陛下の拝謁、受賞者の記念撮影と忙しい日程でした。しかし、勲章を身につけた緊張とその日の感動は今でも忘れられません。

——頂いた勲章はどのようなものですか。

嶋田: 叙勲には大きく分けて首相、大臣、国会議員、地方公共団体の長や議員はじめ産業界、各種団体等でご活躍された方々が対象の旭日章とそれ以外の人が対象の瑞宝章と二つあります。私は瑞宝小綬章というのを頂きました。瑞宝章は「國または地方公共団体の公務または公共的業務に長年にわたり従事し……」とあります。おそらく「長年にわたり従事」したことが表彰の対象なのではないかと思っています。

——ご謙遜ですね。小綬章と言えば国レベルでは省庁のトップである次官級の方が貰うもので、それと同じということですよ。やはり、長年にわたる教育界に対する尽力が評価されているということで素晴らしいことです。

ところで、現在は悠々自適の生活だと思いますが案外お忙しいともお聞きしていますが。

## 生涯現役を貫く健康

嶋田: ありがとうございます。東高校定年後は幕張にある専門学校で6年間勤務する傍ら地域でも自治会長、民選委員、氏子総代やら檀家総代やら社会的奉仕活動のようなことを10年ほどやりました。目下は間もなく喜寿ということもあり若いころからの腰痛持ちということもあるって、好きなゴルフなども止め、あまり無理せずに家庭菜園などをボツボツやっております。

ただ、「生涯現役」を標榜していることもあり、健康でないと何もできないので朝6時25分からのテレビ体操にはじまってストレッチング、ウォーキングなど健康管理には人一倍気を使っております。ただ最近人間頭を使わないとボケたりしますので何か頭を使うことを考えなくてはと模索中です。白内障を経験したために読書など長時間の目の酷使はできにくいけれど気になります。

——最後に母校に対する期待などお聞かせください。

## 優秀な生徒の確保 積極的PRを

嶋田: そうですね。私は先ほども申上げたように平成7年から6年間私立の学校に勤務した時に、公立学校と私立学校の文化の違いものをというものを痛感しましたね。それは具体的には学校の状況というものを上手にPRする文化が公立学校には無いということです。私も外へ出て初めて分かったことですが。少子化の流れの中で、本校が今の水準を維持しようとしたときに、地域や中学校、そして広く世間に本校がどういう学校か、何を目指しているのかなどが理解されていないと、優秀な生徒が集まらないという事態になるだろうということです。

東高は将来のリーダー作りの学校なので地域社会との連携、活動への参加、そして部活動を通して社会的自覚や人間的教育を実践し、そのことをしっかりPRしておくことが必要だと思います。私立学校は経営上の理由もありますが実に上手にPRしており、それだけに優秀な生徒や先生が集まりつつあります。

——公立学校にもいわゆる企業的経営感覚が今こそ必要だと……。

嶋田: そうですね。私立学校では企業経験者などに来てもらってPRなどを研究していました。また、現在いる生徒や教員の能力の引き出しにも力を尽くさなければならないでしょう。たとえば、先生方が他県研修の

ようなプログラムで「外へ出る」「外の状況を肌で感じる」ということが必要ですね。校長先生のご説明だと本校には逆に他県からの見学者が多く、その方々に逆取材するように指導しておられるとのことですが、それも必要なことでしょう。しかし、「出向いて見聞してくる」ことの重要性も強調しておきたいですね。先生も生徒もいろいろな機会を与えられて進学校としての力をつけることが必要だと思います。さらに先生方と協議をし、近隣の進学校を意識した大胆かつ積極的な年次計画を立案、実践、集約する体制が大切ではないでしょうか。

——いや、今日は大変有意義なお話を聞かせていただき

## 先輩バンザイ

### 30年間にわたる資料収集でことわざ辞典を出版した時田昌瑞さん

(高校第16回S39卒)

(2010.11.18 千葉市中央図書館にて。聞き手: 井戸川同窓会長)

井戸川: どうも、今日はお忙しいところお時間をいただきありがとうございます

時田: こちらこそありがとうございます



#### 読み物としても面白い辞典

井戸川: 岩波ことわざ辞典拝見しました。そもそも辞典というものは分からぬことわざを引いて、意味が分かればそれでおしまいなのですが、この辞典は読み物としてもとても楽しく次から次へと面白く拝読しました。

古くからあることわざが、いつ頃誰がどのように使ってそれが現在どのような頻度で使われているなどにも触れられており、興味津々でした。

2000年10月に刊行され2009年5月時点で14刷です。すごく多い刷り数だと思いますが、こういうものはどのくらいの発行部数になるのでしょうか。



時田: ありがとうございます。そもそも辞典としては、その性格上一般の書籍と異なり長期に出ますが、量的にはそれほどでもなく最初に出てから継続して多量に売れるいわゆるベストセラーとなるのは、普通は難しいでしょう。「岩波ことわざ辞典」は、朝日新聞の「人」欄で取り上げられたり、NHKテレビインタビューなどで紹介されたりということもあって予想以上の売れ

ありがとうございました。5月の同窓会総会にはぜひ足をお運びいただけますようお願いいたします。

鷲田: はい、私が勤務した別の学校では同窓会の総会の案内がきません。大変さびしいことです。しかし、東高校は必ず職員に総会案内がきますね。出欠はその時々の状況によるでしょうが、案内が来る、会報が届くのは嬉しいものです。

——はい、今後も努力してまいりますので本校の先輩としてもよろしくご指導くださいますようお願いいたします。

行きです。電子辞典になったものと合わせれば、戦後発行のことわざ辞典としては、トップクラスの10万部超になるのではないかでしょうか。岩波書店からも感謝されていますよ。

井戸川: それからお正月向けに集英社から出ている「ちびまる子ちゃんのことわざかるた」を孫に買ってやりました。子供でもことわざの知識はとても有用だと思いました。

#### ちびまる子ちゃんのことわざかるた

時田: ありがとうございます。これは集英社の「満点ゲットシリーズ」という人気まんがキャラクターを使った、まんが勉強本のカルタですが、まんがで学べる手軽さと大人でも勉強になる中身の濃い解説文がついています。44のことわざが読み札になっており、かるた取りで遊びながら、楽しくことわざを覚えることができます。ことわざかるたの歴史などについて、より深く知ることができる「かいせつブック」がついており、かるたで取り上げたことわざの意味や使い方を、くわしく説明しているところがミソですね。

#### ことわざにのめりこんだきっかけは

井戸川: そこでお尋ね致しますが、そもそもなぜことわざに関心を持たれたのか、高校時代からもそうだったのか、それとも別のきっかけがあったのかなど教えてください。

時田: そうですね、高校時代は担任は生物の吉田小百合先生でしたし、部活は男子卓球部でしたが1年の夏にやめました。だからことわざにはそれほどの興味もなかったと思いますね。

きっかけとしては、杉並区の教育委員会に就職したあと1976年ごろ早稲田大学時代の友人と一緒に「世界のことわざ」の翻訳や編集を手伝ったことでしょうね。ことわざの面白さにのめりこみました。その後1985年にことわざ研究会の創設に加わり、2007年にはそれをことわざ学会に改称しました。2009年10月に、新たに日本ことわざ文化学会を旗上げしました。

研究過程から得たものとして、古代から現在まであらゆる分野で使われていることわざには、「古くからの立派な教訓」といういわば誤解された固定観念がありますが、実際にはその時々の時代背景に即して生成・変容・消滅しつつ歴史を刻んできているということも

分かってきて、ますます面白いと思うようになりました。ことわざは私なりの表現では世界で最短の“慣用言語芸術”、言い換れば「十七音の俳句より短い言い回しで、森羅万象を言い表してしまう言語芸術である」と考へています。

井戸川：つまり生きていると……

### ことわざは生きているし今も生まれている

時田：そうです。ことわざはまさにその時代の社会の現実と密接につながって新たに生まれたり、社会の変化によって使われ方や意味が変わったり、あるいは消えてしまったりしています。そうした動的な視点でことわざを見ることが大変重要だと思うようになりました。

ことわざは、人々やその暮らしを豊かに表現しながら、歯切れのよい短文句に昇華して伝承してきたんですね。それは「言の技」であるとともに「事の業」でもありました。

井戸川：新しく生まれることわざもあると……。

時田：ええ、例えば秋に、名古屋で開かれたCOP10で、国際生物多様性年ということもあり、エコ・ファースト推進協議会が主催して全国の中学生から“大切にしたい生き物と自然”、“いろいろな生き物と一緒に生きる”を表現する創作ことわざ「エコとわざ」を募集しました。私も審査員をしましたが日本ことわざ文化学会賞には小学校3年生の作った「くまをおうより森をそだてよ」が選ばれました。

現在のエコロジーをうまく言い表していますね。とにかく全国で熊の被害が続出しましたよね、秋は。言葉の内容としても「物事の本質をつけ」という教訓も含んでいると思えませんでしょうか。

### ことわざを研究する上でのご苦労 (30年間にわたる資料集め)

井戸川：研究するには資料集めや文献収集などご苦労も多いのではないですか。30年間にわたる資料集めだったと伺いましたが。

時田：資料集めはあまり苦じゃないです。古書店や骨董店めぐりをはじめ考えられる限りの資料収集を心がけました。江戸時代の文献や絵本、特に浮世絵の類に面白いのがありますね。北斎・広重・国芳などの有名な浮世絵師の作品や狩野派のもの等々じつに豊富にあります。何よりも新しい発見の喜びがありますね。およそ3000点の資料を集め、辞典などの執筆に大いに役立ちましたが、資料の管理に苦労しました。手に余る資料管理は幸い明治大学図書館・博物館が引き受けくれ目録を出版してくれました。目録の出版によって、多くの研究者や後進の方々もこの資料を見ることができるようになったという点で無駄にならずに永く生きてくることが嬉しいです。

### 後世に残る仕事—研究から得た教訓

井戸川：なるほど。膨大な時間と情熱の産物ですね。しかし、具体的な著作物として、しかも多くの人が手にとって見る・使う・頼るという後世に残る仕事をされたわけですから羨ましいというかご自身なりに満足感もおありではないでしょうか。

そこでこの研究をやっていて感じたこと、母校の後輩

たちに参考になるような教訓はありますか。

時田：「好きこそものの上手なれ」ですね。私の場合は、キッカケは偶然だったとしても、やっているうちに何かびっくりするような発見があって面白くなり、それが別の道へ行くことになってもその先はどうなっているのかという興味が研究を前進させ夢中になれたというところでしょうか。

### これからの活動予定

井戸川：「好きだから」「興味があったから」と一口に言いますが、それを持続させる粘り強さや熱意に頭が下がりますね。しかも日本の文化にも大いに貢献しているという点でも素晴らしい業績だと思います。こういう方が我々千葉東高校の卒業生であるということに大いに誇りを持ちますね。これからのことですが新たな出版計画などありましたら教えてください。

時田：そうですね。宣伝めますが、実は岩波書店が2013年に創業100周年を迎えるのにあたり、それに



合わせて世界の20数言語による「国際ことわざ比較辞典」(仮称)を出そうということで、目下プロジェクトを組んで進行しています。世界のレベルのものになりますが、各国でも日本と同じような言い回しというかことわざがあるということが面白いですね。日本の中では、昨年になりますが東京書籍から「東京書籍創立100周年記念出版」ということで「図説 ことわざ事典」が刊行されました。

これは従来のことわざ辞典が意味の解釈を中心とした文字情報だけでしたが(だから辞典なのですが)こちらは視覚化・図象化によって2,200項目のすべてに図版をつけ、図版だけでいえば4,300点あり、日本で初めてのことわざ絵事典です。世界的に見ても前例がないかと思います。

これはとても面白いと思いますので是非書店でお手にとってご覧いただきたいと思います。買っていただければもっと嬉しいですが。(笑い)

2011年度は、夏にことわざ検定を文化事業として実施します。小学生から大人までを対象に全国レベルで行うものです。この検定の目的はことわざの普及や関心の掘り起しあしはもちろんですが、受験者一人一人が、自分が作ったことわざ“創作ことわざ”を発表できる場にして文化としてのことわざを楽しんでもらおうとするものです。

井戸川：今日は、貴重なお時間をいただき、とても興味深いお話をありがとうございました。  
ますますのご発展を祈ります。

# 在校生 バンザイ!!

ことしも在校生頑張っています。そのうちの一部をご紹介します。

## 山岳部

### 7年連続メダル獲得 大会史上最多記録

2010鹿児島インターハイ  
女子 準優勝 男子 5位入賞



後列 男子団体5位の皆さん、前列 女子団体準優勝の皆さん

8月6～10日に鹿児島県霧島連山で行われた全国総体登山大会において、本校山岳部は女子団体で準優勝、男子団体も第5位に入賞し、平成16年から7年連続で全国大会のメダルを獲得することができました。

同一校で7年連続のメダル獲得は、大会史上最多記録タイです。

今年は、男女8名の選手のうち昨年の経験者が4名いたこともあり、その経験を活かして男女とも5年ぶりの全国制覇をすることを目指しました。

大会前の2月に新燃岳が小噴火を起こしたため、大会コースが急遽変更になり、宮崎県で発生した口蹄疫での入山規制があったり、大会の開催すら危ぶまれましたが、地元の方々のご尽力により何とか大会は開催できました。

大会中は台風の接近で連日雨模様の天候でしたが、選手は日頃から鍛えた練習の成果を十分に發揮しました。登山競技は大会コースが毎年異なるため、事前の下見調査が成績に大きく左右します。下見が直前の一度しかできなかった遠方の鹿児島県開催で7年連続のメダル獲得を達成できたということは今後の後輩部員の自信になったと思います。

来年は、青森県の八甲田山・岩木山山系で行われます。悲願である2度目の全国制覇を目指して頑張って欲しいと思います。

最後になりましたが、インターハイ出場に際し同窓会から多大なる援助を頂きました。顧問、部員一同心から感謝いたします。ありがとうございました。

(山岳部顧問 高山雅夫 記)

## 陸上部 45年ぶりの快挙

高校総体（インターハイ）  
全国優勝（陸上200m）



陸上部3年三原君、県議会児童・生徒表彰で代表者スピーチに

平成22年8月に沖縄で開催された全国高等学校総合体育大会の陸上男子200Mで見事に優勝を果たしました。

3年の三原浩幸君は、千葉県議会、千葉県高体連、市原市からそれぞれ優秀選手として表彰されました。

特に、2月10日に行われた県議会における児童・生徒表彰では、高校の運動部門の代表として県議会議長から表彰状を受け取ったのみならず、全表彰者の代表として謝辞を述べるという榮誉に浴しました。

この表彰式には、県議となられている同窓会の山中副会長をはじめO Bの方々も出席されており、O Bの方々にもその勇姿をお見せすることができました。

同席していた山中県会議員のコメント：

母校の生徒が代表でスピーチするのを、母校卒業の同僚議員とともに聞いて、先輩としてとても誇りに思いました。

印象に残ったのは、『陸上は決して個人種目ではない。指導してくれた先生、仲間、応援してくれた家族の存在があったからだと感じている』という言葉でした。

ますますの活躍をいのります。

# 書道

## 第19回国際高校生選抜書展

世界から1万6千点あまりの応募作品の中から本校生徒2名が選抜されました。

この書展は、日本国内から16,490点、海外在住および留学生223点が出品され、本校から書道部の3年生中西遙香さんと2年生大和田周甫君が入選という快挙を成し遂げました。

二人の作品は、平成23年2月1日から5日まで大阪市立美術館に展示されました。

お二人からそれぞれコメントを頂きました。

### 中西 遥香さん

この作品は昨年(22年)6月ごろから取り組みました。これまであまり良い結果を出していくなかったこともあります。時間を見つけては練習を繰り返し、一生懸命に取り組みました。

東雲祭の準備や受験勉強と両立させるのは大変でしたが、とても充実していました。

まだまだ苦手なこともあります。最後に大きな大会で入賞できたことはとてもうれしいです。

ご指導いただいた高橋敏行先生、ありがとうございました。



### 大和田周甫君

今回は、全紙という大変大きな紙に書きましたが、この大きさの経験がないのでバランスをとるのに苦労しました。高橋先生のアドバイスもいただきながら、とにかく慣れるしかないと思い練習に練習を重ねました。

数十枚描いたあたりからバランスが取れはじめ、得意のかすれも意識しながら書いていきました。

筆にしみこませる墨の量の加減が難しく、これも練習で克服しました。一文字目がうまくいくと最後までうまくいく性格なので、一文字目は特に集中して書きました。

今回の入選は今後の励みになりました。

さらに頑張ってまいります。



人間生命の運動法則を研究する科学

## 千葉人間科学協会

理事長 小塚興作 (高校第11回卒)

千葉市若葉区桜木7-5-64

☎ 043-231-9215

あなたが住みたい町のアパート・マンション

お部屋探しを応援します!!

ISO9001認証 千葉県知事免許(10)5206号  
株式会社 **高品ハウジング**

同窓会副会長・県議会議員 山中 操

千葉市若葉区高品町1585-1 ☎ 043-232-0006

bayfm78 & 千葉テレビ 毎週日曜日 22:00~22:30 にて **CIM放送中**



携帯電話でQRコードを読み取ってください

# 国際交流米国派遣報告

引率教諭 北郷真理子

平成21年度の国際交流プログラムは、3月17日（水）～28日（日）の日程で、米国ミシガン州デトロイト郊外にあるクラークストン高校に1年生女子10名が派遣されました。まず3日間ニューヨークで市内見学研修した後、ミシガン州へ移動し、一週間ホームステイをしながらクラークストン高校で英語での日本文化発表を中心とする活動を行いました。事前準備のかいあって、生徒達の発表はどれもすばらしく、クラークストンの生徒達も興味を持って積極的に参加していました。

このプログラムを担当するフェイ先生の日本語の授業だけでなく、社会科の授業や、近隣のミドルスクールなどでも発表を行いましたが、生徒達はプレゼンテーションを行う際に同じテーマを別のクラスで行う時には前回の悪い点を改良し、場所や持ち時間の変化にも動じることなく臨機応変にできるようになっていきました。

こういったところは、さすが東高生だなと感心しました。クラークストン高校の先生方からの評判も大変良く、「ここ数年中でベストな生徒達だ」とお褒めをいただきました。



クラークストン高校の生徒たちと

## 誰もが 東雲祭参観記 待っていた 東雲祭 参観者3,000名超す！

**【東雲大賞】 3年5組「アイーダ」**

東高校の生徒達にとって、年間の最大行事である第47回東雲祭が、平成22年9月4日（土）・5日（日）の両

日にわたって開催されました。

私たちは井戸川会長、石橋副会長、市原書記とともに5日の午後に参観してきました。

受付で案内の冊子をいただいた瞬間に今年はどんなものが拝見できるだろうかという楽しみと期待でわくわくしてきたのを思い出します。

今年の参加団体は各学年の全24クラス、部活、同好会、教職員やPTA理事会等を含めた有志グループ25団体と合わせて49団体の多数が参加しており、関係者みんなで母校を盛りたてようという気合いで満ちていました。



東雲大賞 3年5組「アイーダ」の皆さん



初登場先生バンドの演奏（向って左から下田先生、萩原先生、森本先生、篠崎先生、宮崎先生、鈴木先生）

今回の米国派遣に参加した生徒達にはこの研修中の貴重な体験をもとに、将来は色々な国の社会や文化の違いをふまえた上で国際交流に少しでも貢献できる人物になって欲しいと思います。

約36年になる本校の国際交流プログラムがこうして続いているのも、これまでこの活動に携わった方々の尽力によるものだと思います。

今後も本校の国際交流のプログラムが生徒達にとって実り多きものとして続いて欲しいと思いますし、今回引率職員として携わり、本校卒業生の私自身も少しでもそれに貢献していかなければと思っています。

最後に、同窓会をはじめ、このプログラムをご支援いただいた全ての方々に心より感謝申し上げます。



# 各地で同期会・支部会・地区会 活発に開催

各地で同期会・部活動OB会、クラス会などの活動が盛んになってきました。今回も各地から編集部に寄せられたご寄稿を紹介します。

## 第5回東雲会ゴルフコンペ

平成22年7月19日(月)海の記念日、好天気の中、山武グリーンカントリークラブにて、元母校校長の長妻孝治先生、昨年同様中国(西安)から駆け付けてくれた西安外国语大学教授木村行幸先生(元佐倉東高校校長)、そして紅一点の安川民恵さんもご参加いただき同窓会交歓会をいたしました。

新ペリア方式での結果は、優勝 安川民恵氏 43/41 H12 N72、2位 中村由貴彦氏 45/44 H14.4 N74.6、3位 井戸川浩氏 50/45 H20.4 N74.6、4位 河西郁宏氏、5位 米村勝一氏、6位 澤田繁信氏、7位 矢代正人氏(バスグロ)、8位 長妻孝治氏、9位 横山創氏、10位 木村行幸氏、11位 岩本達雄氏、12位 松本照久氏、13位 丸尚作氏、14位 奥田雅之氏でした。

終了後のパーティでは、それぞれ母校での思い出や同窓会に対する思いなどが披露され、“次々と新しいメンバーが生まれますように”との思いを込めた恒例好評の『生みたての卵と沢山の野菜』が参加賞とともに配られ、ゴルフ場からも特別賞をいただき、全員ニコニコ顔で来年の再会を約して散会しました。



スタート前の勢揃い

## 高女2・3回生懇親会(昭和21年・22年3月卒)

平成22年6月19日(土)

そごう千葉店 自然食バイキング“はーべすと”にて。

### 《幹事から一言》

毎年恒例になっている懇親会。今回の出席者は6名でしたが、お互い元気で再会できることを喜びました。日々の過ごし方、趣味、健康管理等の話も弾み、楽しいひとときでした。「健康第一」を合言葉に再会を約束し、閉会となりました。

次回懇親会は恒例6月第3火曜日(平成23年6月21日)です。会場は「そごう」千葉店地下1階、フードコート内「鮓やまと」で実施致します。

多くの皆さんにご参加されることを楽しみにしております。

(高女第2回S21卒 小林美代子)

### 【優勝者 安川民恵さんのコメント】

縁あって、昨年から母校同窓会主催のコンペに参加させていただくようになりました。今回ハンドにも恵まれ、初優勝という栄冠を手にしました。

会長さんはじめ皆さんには、日頃から同窓会のためにご尽力いただき、ただただ感謝申し上げるばかりです。

どなたでも気軽に参加できるコンペですので、さらに同窓会の輪が広がっていけば幸いです。

平成23年も7月18日(月)海の記念日に開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

(尚、記事作成現在、国会で祝日変更が検討されており、海の記念日が単なる記念日となって休日ではなくなる可能性もあります。その場合はその前日の7月17日(日)に実施することもありますので、お含みおきください。)

(幹事 澤田 繁信 高校第23回S46卒)

### お申し込みお問い合わせは

澤田(☎043-261-4528 ギャレックスチバ株式会社)まで。  
(ただし、お申込みお問い合わせの受付時間は昼間のみですのでご協力ください)



## みどりのお山にかこまれた幼稚園 若松台幼稚園

当園は、3千坪を越える園庭、四方木々に囲まれた自然の中で、

- ・友だちとのふれあいを大切にする。
- ・情操豊かな心と自立心の芽生えを養う。

集団の中で基本的習慣は勿論のこと、望ましい経験を積み、個性を伸ばすことを念頭に日々研鑽を重ね、年齢に応じ同じ経験をさせ、どの子にも喜びと自信が持てる保育活動を開拓し、毎日の積み重ねと愛情を持って元気・根気・やる気がそだつよう日々努力しています。

理事長 田中信行(昭45卒)

〒264-0021 千葉市若葉区若松町401  
TEL 043-232-5177  
FAX 043-232-5178



## 昭和32年卒（高校第9回）同期会

平成22年11月17日(木) 千葉市「ほていや」にて  
《世話人から一言》

2年ぶりの開催です。当日は雨だったにもかかわらず総勢60名の同期生が集まり、お世話になった恩師の白銀彦太郎先生、井下田博先生、伊藤（旧姓篠田）圭子先生のお三方を囲み、学生時代を懐かしく思い出しながら語り合い、楽しいひと時を過ごしました。

昭和32年卒の私たちも72歳という年齢に達したことを

思うと感慨深いものがありました。参加者は皆元気でしたが、歳を重ねる毎に今回も多くの方々が宇宙へと旅立っていることを思いますとともに悲しくさびしい限りです。また、体調が悪く今回参加できなかった恩師や友人については一日も早く回復して次回には参加できることを期待しています。

母校の発展とますますの躍進を祈念し、次回は皆が元気に参加できるなるべく早い時期に開催しようとの声とともに再会を約して散会しました。

(世話人代表 高橋一郎)



## 昭和33年卒（高校第10回）同期会・古希を祝う会

平成22年5月28日(金) 千葉市「ほていや」にて  
《世話人から一言》

古希を迎えた同期58名が、各クラスの幹事と連絡を取り

合い、井下田先生のご臨席を得て一堂に会し、愉快に思い出に残るひとときを過ごしました。

いつまでも元気で長生きしようと誓った会合でした。



## 昭和34年卒（高校第11回）

### 3E 井下田ルームクラス会

平成22年10月9日(金)  
千葉市 鮓割烹みどり（旧みどり鮓）にて。  
《幹事から一言》

85歳を迎え、相変わらずお元気な井下田 博先生を囲み9名が集まりクラス会を開催しました。

今回はいつもより参加者が少なくさびしいながらも密度の濃い話で盛り上りました。

70歳くらいになると、親の介護や亡失、自らの不調など自身をとりまく環境の大きな変化に立ち向かう時期なのかも知れません。それなりに生き抜いてクラス会に顔を出してくれると嬉しいものですね。

元気でやってこられたことの幸せをかみしめつつ、出席

が叶わない事情にある友人たちを思いやるひとときもありました。

(幹事 井戸川 浩)



## 平成22年度 野球部OB会 新年会

平成22年度の本校野球部OB会恒例の新年会が、去る1月29日(土)京成ホテル・ミラマーレで開催されました。今回はOBのほか、以前監督を務められた津島英也先



生(現在生浜高校勤務)、父母会の小川会長、松田副会長、荒井副会長をお招きして和やかな雰囲気の中で開催されました。

懇談の中で、かねてからの懸案である「OB会への参加人数の増員」が話題となり、少しでも活動を活発にし、現役生徒への支援にも努めていきたいということが話題となりました。

最近甲子園出場を果たした安房高校や成田高校ではOB会の活動も盛んで「現役」への支援を強化しているようです。現役生徒、OB、父母会が一体となって本校野球部の発展を支援していきたいと思います。

なお、23年度のOBゴルフ大会は5月23日(月)、OB野球大会1回戦は7月31日(日)に開催されます。

都合のつくOBの方は是非ご参加ください。

(文責・野球部監督 高橋 敏行 高校第28回S51卒)

## 剣道部OB会 三紫会 総会

### 新年会並びに石川宏先生米寿お祝いの会開催

平成22年度三紫会総会は、平成23年1月8日(土)千葉市中央区美弥和に会員約50名と現顧問の岩上先生が参加され開かれました。総会に先立ち、昨年故人となられた元顧問畠山一郎先生、高山孝先生のご冥福をお祈りし、黙祷を捧げました。

総会では役員の増員(年代別)、決算報告、事業報告、3年後の60周年記念事業などについて審議され、提案通り承認されました。

また、三紫会では60周年記念事業の柱として会員名簿の整備に努めていることや、ホームページがネット上にアップされたことも報告されました。

当時は、昨年に引き続き第3代剣道部顧問の石川宏先生と井戸川同窓会長のご出席も頂き、お二人より母校の伝統を引き継ぐ剣道部への激励のご挨拶をいただき、懇親会に入り、盛会裏に終了しました。

特筆されるべきことは、このたび石川宏先生が米寿を迎えたことです。席上、お祝いの花束が贈られ、お返しに自筆の揮毫を手拭いに加工した記念品を頂きました。剣道練習時に頭に巻くのに使います。

一方、三紫会では戦後剣道が復活した当時の市内県立四高校(千葉高、千葉商、千葉工、千葉三高)OBによ



る交流会を行いたいとの話を持ち上がり、平成23年2月6日(日)にホテルプラザ菜の花で四校OB20名による1時間の交流稽古会を行いました。石川先生は常々「剣道は竹刀という道具を介して相手と対戦するので体力的にはかなわない若者とも稽古できる」と話されていますが、今回の稽古会では20代から60代までの方々が参加されました。終了後の懇親会では46名の四校OBが参加し、和やかに旧交を温め、再会を約して散会しました。

尚、三紫会では、母校の道場で原則毎月第4土曜日に母校生徒との合同稽古会を実施しています。OBの皆さんへの参加を期待しています。

(三紫会会長 市川 豊 高校第13回S36卒)



市内県立四高校交流稽古会

# 同窓会からのお知らせ

## 1. 会報の発行方法が変わります

同窓生の皆様には、長年にわたり母校愛溢れるご厚志をいただき感謝に堪えません。

お陰さまで、会報“シャロンの花”も15号を数えるまでになりました。

しかしながら、この会報を皆様お一人お一人のお手元まで配布するためには、多額の送達コストがかかっており、会報発行費用総額の70%近くを占めております。

このことは、会報の発送コストが母校生徒の活躍を支援する費用を圧迫する構造となっていることを示しています。

同窓会としては、この構造を一刻も早く改善し、対外試合や部活動への支援額が縮小されてしまうことのないようにしたいと考え、いろいろと協議してきました。

そこで、平成23年発行の第15号から全体配布は隔年とし、前年にご芳志をいただいた方に限り翌年発行の会報をお送りするという措置を講じることといたし、平成21年5月23日の同窓会総会でご決定をいただき、平成22年3月発行のシャロンの花第14号でも告知しました。この措置は同窓会財務が改善されるまで当分の間継続いたします。

母校は、進学指導重点校として国公立大学への進学率が県下一という実績のある学校ですが、教育方針として“文武両道”的なものもとに、勉強すなわち「知」ばかりではなく、人間として大切な「徳」や「体」についても部活動等を通してバランスよく教育し、各界のリーダーを育成していくという特色ある指導方針を持ち、かつ、実績もある高校であります。

母校を愛する卒業生の皆様には今回の措置についてご理解をいただくとともに、母校の発展に何卒ご協力いただきますようお知らせ方々お願ひ申しあげます。

## 2. 同窓会名簿を発行いたします

同窓会では、母校創立70周年を記念して同窓会名簿を発刊するべく準備中であります。

前回発刊は創立60周年時でしてから実に10年ぶりの発行となります。

この間、消息的異動や住所の変更もあり、新たに卒業された新会員の同窓生は3000人を超えております。これらの改訂・増補のご要望も多く、70周年を期して新名簿を作成することを役員会で決定いたしました。

名簿作成に当たっては、会員個々に掲載希望の有無や掲載内容へのご同意をいただき、個人情報の保護には万全を期してまいりますことは言うまでもありません。

なお、名簿作成業務につきましては、前回同様株式会社に調査作業、各種付随事務、印刷、発送まですべて委託しております。(それ以外の会社・団体に委託することはございませんのでご注意ください)

## 3. 振り込め詐欺にご注意

名簿が発行されますと悪用されることがありますのでご注意ください。

警察からの連絡によれば卒業生名簿を悪用したと思われる事案が発生しているとの情報です。

また、名簿作成のあいだでも不審な電話があったと卒業生から連絡がありました。

幸い被害はなかったようですが一步間違えば被害者になりますかねません。

かかってきた電話ですぐに現金が必要になるようなケースは一応疑ってみることが必要です。

不審だなと思ったらすぐに警察に連絡して下さい。

## 4. 住所・姓名などの異動変更をお知らせください

卒業後、住所や姓名などが変更された場合には母校同窓会事務局までお知らせください。

毎年、会報の「宛先不明」返送数が増加しております。せっかくの情報がお届けできませんのでよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

尚、個人情報に関しては、会報発送、同窓会関係の照会・連絡以外には使用いたしません。

## 5. クラス会、同期会、部活OB会等の記録をお寄せ下さい

同窓会の最小単位はクラスです。まずは、担任の先生を中心にクラス会をまとめてください。

さらに水平展開して同期会へ発展させて下さい。また、部活OB会は異学年交流の垂直展開です。

これも同窓会にとって大事な活動です。

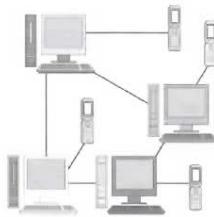
クラス会、同期会、部活OB会などの実施報告（写真歓迎）がありましたら、「会名」「時と場所」「参加人員」「幹事感想」「集合写真」など母校同窓会事務局まで毎年12月末までにお知らせ下さい。（原稿・写真は原則としてお返しきれないのでご承知おきください）

また、「集まりの予告」でも結構です。“シャロンの花”は毎年3月に発行されますので、その後に計画されている集まりの予告、呼びかけをしてください。（原稿は母校同窓会事務局まで）

## 6. 同窓会ホームページが準備中です

同窓会では会員の皆さんからのご希望もあり、ホームページの開設を検討してまいりましたが、このほど簡易ホームページを開設する運びになりました。平成23年4月1日アップの予定です。

URL <http://www.dosokai.ne.jp/chibahigashi/>



## 消息(訃音) 下記の先生方がお亡くなりになられました。記してご冥福をお祈り致します。

お名前	逝去日	享年	本校在任期間	お名前	逝去日	享年	本校在任期間
相川 勝衛先生	平成22. 5. 13	89歳	S53～S56 校長	畠山 一郎先生	平成22. 9. 22	93歳	S34～S40 教頭 S47～S53 校長
劍持 徹先生	平成22. 6. 21	83歳	S28～S42 S47～S50 教頭	草葉 章先生	平成22. 10. 6	91歳	S28～S39 S45～S47 教頭
高山 孝先生	平成22. 9. 5	80歳	S35～S47	高蝶 高先生	平成22. 11. 14	83歳	S52～S55 教頭
野村 典平先生	平成22. 9. 12	81歳	S36～S56				

### 同窓会活動維持基金

同窓会活動は、母校の状況と卒業生の動向をお知らせする会報“シャロンの花”の発行と、部活や教育活動で母校発展のために活躍する生徒や、それを指導する先生方を後押しする母校教育活動への金銭的支援活動です。

県下でも注目を浴びている母校の教育活動への支援に、更なるご後援をお願いいたします。

### 創立100周年祈念70周年記念事業基金

いよいよ創立70周年。更なるご後援をお願いいたします。

お支払いはお手数ながら、同封の郵便振替用紙にて1口2千円、何口でも結構ですので、ご送金下さいますようお願い申しあげます。

郵便振替口座 00160-8-148932 千葉東高等学校同窓会

パソコンの設定・ホームページ作成・ホームページレンタルなど……パソコン・ネットワーク関係

お気軽にご相談下さい。

**ネットオフィス K**

代表／加藤光也 (昭和54年卒)

fax : 047-404-6429

URL : [www.ofice-k.net](http://www.ofice-k.net)

連絡先メールアドレス : [infonigashi@kumasan.nu](mailto:infonigashi@kumasan.nu)

JR京葉線 **蘇我駅東口前**

**アパートマンション分譲住宅**

おかげさまで創業43年



不動産の売買・仲介  
賃貸借・総合管理のことならおまかせ!

堤 清司 (昭和53年卒)

**三幸商事株式会社**

TEL.043-263-3535

サンドサンコー

〒260-0842

千葉市中央区南町2-17-11

FAX.043(265)4488 <http://www.sanko-shouji.co.jp>

### 編集後記

第15号をお届けいたします。

昨年からの一年の間に首相が変わり世の中が変わりつつある中、就職戦線はますます厳しくなりました。

昨年の漢字は「暑」でしたね。確かに夏はものすごい暑さでした。そんな中、若き母校生徒たちは暑さにめげず文武両面にわたる活躍でした。東雲際も暑さの中で立派にやり遂げました。

一方、卒業生も各地でクラス会、同期会、部活O B会を重ねています。

こうした活動が活発になればなるほどみんな元気になりますね。

暑さのせいばかりでもないでしょうけれど、今年は亡くなられた恩師の先生方も多かったです。

ご冥福をお祈りいたします。

母校いよいよ70周年。次の80周年、100周年に向かってリスタートです。

どうか、これからも「シャロンの花」をご愛読下さい。

(編集委員一同)